

「令和2年度 第1回 事業用自動車に係る総合的安全対策検討委員会」議事概要

日 時：令和2年7月6日（月） 15：00～17：00

場 所：WEB形式（中央合同庁舎3号館8F国際会議室）

出席者：野尻委員長、姉帯委員、石指委員、勝又委員、小菅委員（代理）、木場委員、酒井委員、坪田委員、高松委員、永井委員、榊野委員、堀野委員、和辻委員
警察庁交通局交通企画課長（代理）、大臣官房運輸安全監理官、道路局環境安全・防災課長（代理）、自動車局長、自動車局次長、大臣官房審議官（自動車局）、大臣官房参事官（自動車（保障））（代理）、安全政策課長、技術・環境政策課長、旅客課長、貨物課長、安全・環境基準課長、整備課長

議 事：事務局及び各団体より議題4.（1）、（2）、（3）及び（4）について説明の後、意見交換を実施

各委員の主な意見：

- 目標設定にあたり、事故件数の絶対数は直線的にゼロに向かうのではなく、指数関数的にゼロに漸近する。目標値を絶対数とするか、減少率とするか、議論すべき。
- 事故の形態として追突事故が多いが、被害軽減ブレーキ等の安全装備の効果を評価すべき。また整備を含めた安全指導、普及が重要である。
- 自動運転車と人が運転する車の混在交通における安全の確保が課題になってくるのではないかな。
- 目標設定にあたり、新たな指標の追加の検討は必要と感じる。また、プラン2020において目標値と現実のギャップについては考察が必要である。プラン2020における目標値は、近年の件数傾向に努力目標を加えて決めた。それだけでなく、主要な事故形態に対して、具体的な対策を実施することでどれだけ減少させることができるか、目処を立てて定める目標値も必要ではないかな。
- 次期プランの施策には、高齢ドライバー事故対策、自然災害における安全対策についても加えて頂きたい。
- 「世界一安全な輸送サービスの提供」に対し、日本と他国の比較をしてみてもどうか。
- タクシーにおける乗客のシートベルト着用の声かけについて、事業者や運転者によってばらつきが生じているのではないかな。運転者各々がシートベルトの重要性を正しく理解し、かつ、乗客にその着用を適切に促すことができているか把握してほしい。
- プラン2020における「連携強化による安全トライアングルの構築」も重要だと思っているので、次期プランでの取り扱いを検討すべきである。また、「貨客混載等、新たなビジネスモデルへの対応」等のコロナ禍における一時的な案件を重点施策として位置付けるのは不適切である。

以上